

令和 4 年度 第 2 回彦根市図書館協議会のふりかえり

(1) 第 1 回図書館協議会のふりかえり

- ・入館者数と資料利用者数の差が 5 万人あり、今後の図書館の在り方について、非常に重要となるので分析を願いたい。

→ 分析を行う。

具体的な要因はわかりませんが、猛暑や新型コロナウイルス感染症による経済的影響、また外出制限や公共施設等の利用制限があるなか、図書館は会話や接触が少ないため運営を継続していたこと、また、暑さから逃れ、快適に読書が楽しめる環境にあることなどのマスコミ報道等も相まって、普段図書館を利用されない方の来館が入館者数を押し上げた要因の一つではないかと考えています。

なお、普段図書館を利用されていない方の目的は、館内での読書や憩いの場としての利用に留まり、図書の貸し出しにはつながっていないと思われますので、如何に図書の貸し出しへとつなげるかが今後の課題であると考えています。

(2) 図書館整備基本計画における各種データの見直し結果について

- ・4 ページの改訂素案の方、湖南市の石部図書館の開館年が左右ページで異なる。平成 2 年が正しい。また、江北図書館の開館年が昭和 40 年となっているが、100 年を超えているはずなので確認願いたい。

→ 確認の上、訂正する。

江北図書館は、明治 40 年 1 月 8 日に開館しており、開館年の表記は M40 の誤りであるため、前回会議で配布した資料の訂正をお願いします。(S40 を M40 に訂正)

(3) 図書館整備基本計画第 1 章から第 3 章の改訂素案について

- ・資料 4 の 8 ページ「(3) 図書・資料」については、図書、資料、郷土資料等の名称の整合性を事務局で確認、調整の上、修正する。
- ・その他、第 1 章～第 3 章の修正案への対応方針については、対応案を反映させることで採択した。

(4) 図書館整備に向けた考え方（第4章）の見直し方針について

- ・財政的なことを考えると実現可能性は非常に難しいと思われるがどうか。

→ 現状では、国の補助金が適用できる（仮称）中部館以外は、財政的な目処はない。

- ・館の配置体制は、市民の利便性と、それを実現するための財政との間のコストパフォーマンスとなるが、予算化できる方法があればお尋ねしたい。

→ 整備手法は、市が直接事業を実施する従来手法のほかに、民間活力や資金を活用した手法もあるが、市にとって財政的に有利となる整備方法を検討するとともに、資金確保の手法についても併せて検討していく。

- ・南部館について、地域の方からは現図書館まで行くのが大変とよく聞くので、南部館の整備を十分視野に入れ、地域の熱い思いに応えていただきたい。

- ・現計画は、中央館の位置が選定地よりも北に設定されていたため、南部館を含めた3館体制となったが、中央館が清崎町地先に選定されたことを考えた場合、稲枝地区の利便性はどうか。

- ・当初は、3館体制が示されたが、財政の問題と（仮称）中部館の整備で考え直す必要がでてきた。中央館、（仮称）中部館のあたりは非常に充実するが、南部地域との地域格差が生まれる。（仮称）中部館ができることで人口増の地域もカバーでき、4館あれば市全域がカバーできるようになり望ましい。財政面は、行政の方で努力して欲しい。

- ・亀山学区に中央館ができると、稲枝から近いため、長い目を見たとき南部館の必要性がどうなるか。計画としては南部館も入れておいて、建設時にどのような図書館が南部館として相応しいか考えるのがよいと思う。子どもや孫世代の将来的負担を大きくするのはよくない。南部館を含むことでどの程度の費用がかかるのか提示してほしい。

→ 提示する。

- ・地域の現状を把握するため、学区別の人口一人当たりの貸出冊数を示してほしい。

→ 提示する。